

### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 問題作成の方針

今年度の入試においては、まず第一に、高等学校学習指導要領に従って、「現代の社会生活と青年」「現代の経済社会と経済活動の在り方」「現代の民主政治と民主主義の倫理」「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の4項目のバランスに配慮した。

第二に、学習の成果が高い得点に結び付くように、学習した者と学習しなかった者との差が出ないような出題は避け、基本的な知識をもとにしてじっくりと考えることで解答に至るような問題を設計した。

第三に、学習と出題の基本範囲は教科書に記述された内容であるが、その基礎知識を中心としながら、さらに現代社会に生きる者として理解してほしい重要な時事問題、特に大学生になろうとしている者にとって常識であるべき問題を取り入れた。

第四に、それぞれの問題におけるリード文でメッセージ性を明らかにするとともに、論旨を分かりやすくし、リード文と各設問との関連性を十分に配慮した。

最後に、平均点は6割の前半にかかっているが、もう少し高い結果を目指していたことからすると出題と配点についての再考があってもよいと思われる。第1問のうち低い得点が出た問題は時事性の域を越えた難解さが、第2問のうちの低い得点が出た問題はテーマの重要性にそぐわない学習傾向とのギャップが、第3問のうちの低い得点が出た問題はテーマにおける問題の用語の難しさが、第5問のうち低い得点の出た問題は、学習するものの日常的な生活感覚とテーマとのギャップが表面化したものと推察される。出題した問題全体の傾向としては、ほぼ意図したような問題であったと思われるが、さらに検討して、来年度以降の出題の妥当性を確保したい。

#### 2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 高等学校学習指導要領の「現代の社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の民主政治と民主社会の倫理」領域から、司法制度や人権保障に関する基本的知識及び民主主義と法の支配との関係についての理解に重点を置いて作題した。モチーフとしたのは裁判員制度である。裁判員制度というトピックは非常に時事的なものであるが、その制度を表層的に知る・覚えるだけではなく、より深く、司法の在り方、民主主義の実現方法、違憲審査制度の正当性などの根源的諸問題を踏まえた上でこれを理解し、自己の問題として受け止めてもらいたいというメッセージを込めた。そのため、教科書的な知識と時事的知識とをそれぞれ個別に聞くのではなく、できるだけこれらに関連付けさせるような形で取り上げることを試みた。

問1 裁判員制度に関する基本的な知識を問うことを意図したものである。時事性の高い問題であるが、高い正答率を得た。

問2 国民が裁判に関与する機会・制度についての知識を問うことを意図した。教科書で学習する知識と時事的な知識を合わせて問うものであり、正答率は少々低かった。

問3 日本の司法制度及びその現状に関する知識を問うことを意図した。時事的な知識を、教科書で学習する知識と関連付けて問うものであり、正答率はそれほど高くなかった。

問4 日本における人権保障に関する知識を問うことを意図した。重要な裁判例についての知識を問う基本的な出題であり、正答率は高かった。

問5 立憲主義と民主主義との関係に関する知識を問うことを意図した。各時代の制度を比較することを通じて、違憲審査制度を軸とする立憲主義の思想と民主主義との関係について正確に理解しているかを問うものであったが、正答率はやや低かった。

第2問 高等学校学習指導要領の「現代の社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の社会生活と青年」「現代の民主政治と民主社会の倫理」領域を中心に、地域社会の変化とそれに対応するための対策、そして対策の基盤となる地方自治に重点を置いて作題した。中心市街地の衰退は、現在、日本の多くの都市で発生している問題である。また、高齢化への対応も日本社会全体にとっても重要な課題である。これらの問題が密接に関連していること、そして問題の解決には様々なアプローチがあることを理解してもらうことを目指した。特に、自治基本条例について直接問うことはできなかったが、自治に関する動きを学生に認識してもらいたい、というメッセージを込めている。

問1 高度経済成長期前後の、都市部と農村部の変化に関する基本的知識を問うことを意図した。人口移動の要因やその結果など、やや応用的な内容も含めたが、6割程度の正答率を確保できた。また成績下位群の誤答率が高く、識別力が高い問題であった。

問2 日本の小売業の現状と、それに関連する事項を問うことを意図した。教科書的な知識だけでなく③や④で時事的な関心も問うことも目指したが、高い正答率を得た。

問3 日本の高齢化に対する政策に関する基本的知識を問うことを意図した。全体の正答率は決して高くないが、成績下位群の誤答率が高く、識別力の高い問題であった。

問4 日本の地方自治体の政治機構について基本的知識を問う問題である。議会と長との関係、執行機関の多元主義など中央と地方の政治機構の異なる点を認識させることを意図している。また、副市町村長という語を積極的に用いることで、地方自治法改正後の補助機関の用語の定着を意図した。正答率は高く、おおむね政治機構について理解していると言える。

問5 地方分権一括法の施行による事務の再構成について知識を問う問題である。それぞれの事務についての基本的知識を問うことで、国と地方の関係が大きく変化したことを認識させることを意図している。結果を見ると、用語は受験者には難しいようであるが、正答率が高い。丁寧に読んでいけば、教科書の記述から言えば容易であろう。

問6 条例について基本的知識を問う問題である。地方分権が進む中で、地方自治体の自主立法権が重要であることから、条例の制定・改廃手続きを認識することを意図している。正答率はあまり高くない。問題文における表現の正確性を重視するため、条文に、「再議に付す」とする表現が難しかったように思われる。

問7 三位一体の改革について問う問題である。地方分権改革の時事的問題を問うことで、第1次分権改革までの流れを認識させ、地方分権には様々な問題があることを認識させることを意図している。正答率はかなり低く、正答率と誤答のうち最も解答率の高いものの解答率はほぼ同じであった。

問8 調査研究に必要な手法に関する知識を問うことを意図した。先述のとおり中心市街地の再活性化は日本の各地で見られる問題であり、調査研究の題材としてイメージがわかりやすい

と考え、この問いを作成した。問題の性質上難しい内容を問うことが困難で、結果として正答率が非常に高いものとなってしまった。

第3問 高等学校学習指導要領の「現代の社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の経済社会と経済活動の在り方」領域から、技術革新と産業構造の変化を中心に、企業の働き、金融機関の働き、個人と企業活動における社会的責任についての理解に重点を置いて作題した。現代社会において技術革新の役割が高まる今日、技術革新を社会発展に結び付ける社会的な仕組みや企業家などの経済主体の重要性についての意識を高めてもらうことを意図した。社会企業家の具体的事例を取り上げることで、技術革新を社会発展に結び付ける上での個人のビジョンの重要性というメッセージを込めた。

問1 知的所有権に関する基本的な知識を問うことを意図したものである。時事性の高い問題であるが、平易であり、高い正答率を得た。

問2 技術革新が社会や経済に及ぼした影響についての理解を問うことを意図したものである。基本的知識を持っていれば容易に解けるはずの問題であるが、特定の用語が受験者になじみが少なかったためか、予想より正答率は低かった。

問3 経済思想家とその思想内容についての基本的な知識を問うことを意図したものである。教科書で取り上げられている基本的な知識を持っていれば解答できる水準の問題であるが、経済思想家と思想内容の関連について正確に理解しておくことが必要であったためか、正答率は少々低かった。

問4 ベンチャービジネスに関する現代的な知識を問うことを意図したものである。ベンチャーキャピタルやファイナンシャルプランナーなどの時事的な用語に関する知識を持っていることが求められているため、正答率は低かった。

問5 企業の社会的責任に関する基本的な知識を問うことを意図したものである。平易な問題であり、高い正答率となった。

第4問 高等学校学習指導要領の「現代に生きる私たちの課題」の中の「地球環境問題」及び「資源・エネルギー問題」の領域を中心に、いわゆる環境・資源・エネルギー問題全般にわたって、重視・優先して対応すべき問題とよく知られる問題の関係理解に重点を置いて作問した。現代社会において、環境問題、及び、身近でできる個人レベルの対策についての認知度はかなり高いが、重視・優先して対応すべき問題が何かということについての議論は活発でない。種々の制約により鮮明には伝わりにくかっただろうが、高等学校学習指導要領にある「主体的に考えることの大切さを自覚させる」ことを促そうという意図をリード文に込めた。

問1 環境経済学的知識を問う設問で、正答率は予想どおりやや低かった。現在の教材では「外部不経済」について、企業活動に関連するものと限定されるように誤って記述されているものが複数ある。これが契機となって教材が改訂されることになれば幸いである。

問2 自然保護・生物多様性に関する基礎的知識を問うことを意図した。捕鯨の賛否については、一世代前であれば極めて常識的であったが、残念ながら今の世代にはそうではないようで、正答率は予想どおり高くはなく、妥当な範囲であった。大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）では取り扱いにくい意見対立のある事象を取り上げたかいはあったと思っている。

問3 知識を問うのではなく考えることを促すことを意図した。新しい試みであったため、極めて容易な問題となり、正答率も予想どおり極めて高かった。難易度については残念であるが、今後のこの種の作問に道を開いたことと信じている。

問4 地球温暖化問題を題材に、①②では社会的背景を理解してもらうことを、③④では誤認されがちな事象の正確な理解を促すということを、それぞれメッセージとして作問した。④は、想定される誤認によっても正答を導く形態になってしまったのが残念であったが、そのためもあり、正答率がちょうどねらいどおりとなった。誤答の③を選択した受験者がある程度多かったので、③のメッセージは届いたと思っている。

問5 廃棄物問題を題材に、①③④では誤認されがちな事象の正確な理解を促すというメッセージを、②③では社会人予備軍である受験者に実生活に重要な知識を持ってほしいというメッセージを、それぞれに込めて作問した。正答率は予想を超えて高かった。かつては専門家にすら支持された誤答①等を、学生がおしなべて正確に学んでいることについて、高等学校における環境教育の充実に感謝したい。②は、表現が十分練られておらず、外部から批判を受けた。今後の課題とする一方、環境問題の専門家が極端に少ないことの限界を感じた。

第5問 「グローバル化」という現代社会の特質に深くかかわる概念をキーワードに、高等学校学習指導要領「現代の社会の人間としての在り方生き方」の中のすべての分野を横断する出題を意図した。具体的には、「現代の経済社会と経済活動の在り方」領域からは、経済のグローバル化についての問1、問2を出題した。「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」領域からは、国際機構（問3）、地域統合（問6）、安全保障（問8）について出題した。グローバル化に伴う人々の交流や異文化理解の重要性についての問3、問4は、「現代の社会生活と青年」分野からの出題である。最後に、問7は、「現代の民主政治と民主社会の倫理」から出題した。グローバル化はこのように、現代社会の様々な側面に深いかかわりを持つ概念であり、時代の特質をとらえるキーワードとも言えよう。しかし、「冷戦」という用語とその時期の世界の現実との間に距離があったように、「地球全体」という語義を持つこの用語と地球社会の現実との間には、語義矛盾に近い緊張関係と距離がある。その距離にこそ常に目を向けるべきであるメッセージをリード文に込めた。

問1 様々な経済政策の内容についての基本的な知識と、グローバル化の促進要因にかかわる基本認識を問うことを意図した。高い正答率を得た。

問2 グローバル化の負の側面の一つとしてあげられる、通貨危機発生メカニズムについて、時事的な内容も含め知識を問うことを意図した。知識によらずとも論理的な思考での解答も可能であると考えたが、正答率はやや低かった。

問3 地球大に広がる経済格差への取組やそれにかかわる国際機構についての基本的知識を問うことを意図した。識別力はあったようであるが、正答率はやや低かった。

問4 教育の国際化が強調されている現代社会において、留学生の受入れ・送り出しの現状について基本的な知識を持ってもらう意図で、留学生数を題材としてグラフの読み取り問題を作成した。疑問の入る余地のない選択肢の作成により難易度を上げることができずに、高い正答率となった。

問5 グローバル化の進展において、異文化を理解するために基本となる用語の正確な理解を

意図して作題し、高い正答率を得た。

問6 グローバル化に並行し進行する地域統合や冷戦後の地域機構の変質について知識を問うことを意図した。正答率は、ほぼねらいどおりの結果であった。

問7 日本に在住する外国人人口の増加は、グローバル化の一つの側面と言える。その外国での人権状況について作題したが、正答率は極めて低かった。

問8 安全保障の考え方についての最近の潮流やそれにかかわる国連の制度的知識を問うことを意図した。しかし、正答率は予想より低かった。

第6問 高等学校学習指導要領の「現代の社会と人間としての在り方生き方」の中の「生涯における青年期の意義と自己形成の課題」及び「現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる」という領域を中心に、「男女が対等な構成員であることに留意」しつつ問題を作成した。「現代社会」の教科書に掲載されている青年期の領域は狭くかつ古典的な理論が多いため、受験者にとっては出題予想が容易であり、さらに「倫理」分野との重複もあるなど、多くの制約がある中で、人の生涯発達の中で「青年期」が「青年期として他の時期と区別される発達の特徴」を中心に作題した。また、「男女共同参画社会の実現」と関連する最近のデータを取り入れて、世界の青年たちの状況の認識を踏まえて、日本の現状について考える契機となるよう意図した。

問1 人の生涯にわたる発達の中での青年期の位置付け、発達課題、対人関係、体と心のバランスなど、青年期に関する基本的な事項について確認する問題である。単語レベルの知識の習得ではなく、青年期を表す言葉の内容を深く理解し、自覚的にこの時期を過ごしてほしいという意図で作題した。すべて教科書の範囲内の事項のみを取り上げており、かつ過去のセンター試験でも、この種の基本的な問題は出題頻度が高いにもかかわらず、本年度の正答率は必ずしも高くなかった。

問2 青年がこれから参入する「男女共同参画社会」の実現に向けてのキーコンセプトとなる男女の役割観について、スキル問題として作成した。世界の青年たちの意識と日本の状況について知っておく契機とすべく意図し、作題した。結果は高い正答率となり、もっと識別力を持たせる問題作成が今後の検討課題となる。

問3 よく知られた防衛機制（防衛反応）に関する基本的な問題であり、人は常に合理的な行動だけをするものではない、という事の知識を確認するために出題した。結果から見れば問2同様、容易な問題であり、さらに識別力を持たせることが今後の検討課題である。

問4 青年期の対人関係に焦点を当て、自己と他者、友人関係の特徴や、アンビバレンツな感情など、基礎的・基本的な問題を作成し、高い正答率を得た。

問5 多くの教科書で取り上げられているエリクソンのアイデンティティ概念をよく理解していれば、正答にたどり着くのが容易な問題であるため、高い正答率を予測していたが、結果はそれに反して低いものであった。コンフリクトやアイデンティティ拡散の正確な意味の習得が望まれる。

### 3 出題に対する反響・意見についての見解

第1問 リード文で取り上げた裁判員制については、「予想どおり」の出題との意見もあったよ

うに、極めて時事性が高い問題をストレートに問うたものである。しかし、リード文の設定においては、奇をてらうよりもむしろ「現代社会」として重要と思われるテーマを取り上げメッセージとして伝えたいと考えており、その姿勢についてはおおむね理解を得ているのではない。また、リード文と直接かかわる小問が1題のみで、リード文が出題に生かされていないとの評価を受けた。これは、過去問との重複を避けることに加え、「裁判員制度」という身近で時事性の高い話題を契機に、より広く司法と民主主義のあり方について問うという意図があったためであるが、だとすれば一層リード文と小問との有機的関連性を持たせるべくリード文を練る必要があったと思われる。今後の課題である。問1については、空欄補充の形式で裁判員制度の仕組みを問うたものであるが、すべての空欄について知識がなければ解答に到達できないとの意見を受けた。しかし、正答率は標準的であり、またリード文との関連性からも適切な出題であったと考える。他方、問2は教科書的な知識のみならず時事的な知識を併せて問うたことで「少し難しい」との意見があり、また正答率も低かった。しかし、「現代社会」という科目の特性からも、教科書的な知識を現代的課題と関連付けて学習することは不可欠であり、そのことが「良い問題」という評価にもつながっていると思われる。問3の正答率がそれほど高くなかったことについては、個々の選択肢に受験者が不得手とするものがあったからではないかという意見が寄せられた。その一方で「権力関係の基本である」との意見もあり、難易度の問題はああるものの、出題の重要性についてはおおむね理解が得られたのではないと思われる。問4についてはオーソドックスな出題であり「定番である」との意見を得ると同時に、時事性に配慮したこともあり、一部選択肢については「話題性がある」との評価も得られた。正答率も標準的と言えらる。政治・経済」で扱うべき内容との意見もあった。「現代社会」と「政治・経済」とは学習内容が重なる部分があるため、出題の切り口などで「現代社会」の特性を出すよう心掛ける必要があったらう。問5は正答率が低く、「詳細な知識を問うている」「時事の枠を超えている」などの厳しい批判を受けた。日本国憲法と明治憲法との比較の視点を加えたことがその主要因と思われる。これらの指摘については真摯に受け止めるものであるが、しかし、相克を内包する重要な諸概念について理解を深めるためには「比較」という手法がやはり有効であらう。難易度に配慮しつつ、こうした切り口で知識を問う可能性を追求することも必要と思われる。

第2問 リード文については、「歴史的かつ地理的な広がりと流れを押さえた良いリード文である」との評価をいただいている。地域社会の変化について、現在起きている現象だけでなくその背景を踏まえた理解をしてほしい、ということ在意図していたが、その意図を反映させたリード文にすることができたと認識している。問1は、「基礎的基本的な知識を問う問い」との評価とともに、識別力を問う問題となっている、という評価をいただいた。識別力については正答率とともに問題作成上注意を払っていた点であるが、解答結果からも、一定程度目的を達成できたと判断をしている。問2は「平易であり受験者の生活実感から解答できる」という評価をいただいている。この問題については、日常生活への関心を喚起することを意図したが、正答率がかなり高くなってしまったことは課題としたい。また全国公民科・社会科教育研究会から、問い掛け文の「近年」という表現について、時系列の限定表現としてあいまいである、という趣旨の指摘をいただいた。正答率を見る限り受験者に大きな混乱は引き起こさなかった

と思われるが、指摘は真摯に受け止めたい。問3については、時事的で基本的な問題である、という評価をいただいている。高齢化に対応する政策の変化について日ごろから関心を持ってもらいたい、という意図で出題をしたが、意図にそう形での出題ができた判断している。なお全国公民科・社会科教育研究会から、正答肢のみが在宅介護、他の選択肢が社会保険制度に関する記述となっており、正答の予測が立てやすいとの指摘があった。しかし正答率は高いとは言えず、選択肢の構成で正答予測がしやすい、という現象は起こらなかったと考えられる。問4については、基本的問題であるという評価のとおりである。ただし、②は行政委員会について問うているのは「政治・経済」の範囲で難しいとの評価もある。この点については、記述を工夫することで正答にたどり着くように工夫していた。結果として、ある程度の正答率を維持でき、受験者にも地方自治体の特有の政治機構を注目させることができたと思われる。問5については、基本問題として、良質の問題との評価であった。問6については、難しいとの評価があり、特に用語の使用法として「再議」についての意見が多かった。受験者に負担をかけない用語の使用法を今後は考えるべきであろう。また、条例に関する出題は珍しいとの評価が多く、その意味では本問の存在意義は大きい。問7については、評価で指摘されているように、選択肢がかなり細かい部分を問う問題であった点は否めない。地方自治の時事問題の知識としては必須の分野であっても、内容の取り上げ方については工夫を施したい。問8については「平易すぎ工夫が必要である」との指摘をいただいた。実際、正答率は非常に高いものであった。調査研究の作業に関する問題は、誤答肢を「誤答とは言えない」状態にすることが難しく、そのため難易度が下がってしまった。指摘については全くそのとおりであり、課題としたい。

第3問 リード文に対しては、知的所有権、技術革新、社会貢献といった様々な時事的分野を融合した総合問題であり、受験者が今何を学ぶべきかについて時代を読み解く視点が明確に提示されていると高く評価された。問1は、知的所有権に関する基本的な知識を問うた平易な問題であるとの評価を受けた。問2は、技術革新が社会や経済に及ぼした影響についての理解を問うた問題であり、基本的な事項を問うた平易な問題であるとの評価を受けた。傾斜生産方式が受験者にはなじみが薄いのではないかという指摘を受けたが、教科書的な基本的知識であっても、用語の選択を更に慎重にすべきであると受け止めている。問3は、経済思想家の思想内容を問うやや難しい問題であるが、選択肢の提示の仕方に工夫があり、基本事項を正しく理解していることを求める良問であるとの評価を受けた。問4は、ベンチャービジネスに関する幅広い知識を問う問題で受験者には難しいのではないかという評価を受けた。時事的な新しい用語に関する出題については十分慎重に検討を行う必要があると受け止めている。問5は、企業の社会的責任に関する基本的な知識を問うた平易な問題であり、「メセナ」という言葉を知っていれば容易に解答できる問題であるとの評価を受けた。「メセナという用語は古い」との指摘もあり、用語の選択について再考する余地があったと受け止めている。

第4問 リード文について、高等学校教科担当教員の方々からは「ソフトな印象を与えつつ、環境問題を概観し現実に即して考えさせるよく練られた文章である」と評価いただいた。評価いただいた内容は、作題意図が適切に理解されている証左であり、このような評価に感激した。問1について、「企業による公害問題との関連で扱われることが多かった。新しい視点」との評価を得た。前項で述べたように、教材の改訂につながれば幸いである。問2については、前

述した出題意図といただいた評価の焦点はそれぞれ、異なる点にあった。問3については、「自明の答えであり、平易な問題である」という、残念な評価をいただいた。作問の趣旨は生かされたものの、平易すぎた。やや理科学的な論理性を問う形態の作問の今後の方向性になればと願う。問4については、「教科書レベルの知識をもとに時事的関心を持ってとらえた基本的な良問」と評価いただいた。前述した出題意図を評価いただいたものと解釈した。問5については、「日常生活での経験を通して、解答することを意識しており平易である」と評価いただいた。「平易」は、ここではよい意味と解釈したが、反省すべき点もあるととらえている。

第5問 リード文については、「グローバル化の功罪両面を今日的にとらえている」「多岐にわたる問題点について要点を押さえ、簡潔にまとめられている」というように、おおむね高い評価を得られたと考えている。第5問全体の得点率はやや低かったが、解答分布はいずれも識別力のある問題であることを示しており、全体としての出題の意図はほぼ達せられたと思われる。問1は、グローバル化の本質をつく良い問題との評価を得た。問2の通貨危機は、受験者にとって最も弱い部分であるとの指摘があり、実際に、正答率は5割を下回った。しかし、外部評価において、内容的には高度だが、標準的な問題であるとのコメントを得た。問3は、地理的、歴史的理解力を必要とする良問であるとの評価を得た。しかしこの問題も正答率は5割を下回り、やや意外であった。フェアトレードについての出題は新鮮な着目であると評価された。問4は、「読み取り問題は有効」との評価をいただいたが、疑問の入る余地のない読み取りが可能な選択肢を作成した結果、高い正答率となった。今後、識別力の観点より、問題作成を検討する必要がある。問5は、「選択肢の組合せはよい提示である」など、問題形式にも言及した評価をいただいたが、教科書をきちんと学習すれば正答に至るため、比較的容易な問題となった。問6は、冷戦後のNATOの位置付けが、受験者を迷わせる出題との意見があった。ただし、正答率は特に低い結果ではなく、常識でも解ける問題ではなかったかと推測している。問7については、「最も難しかった」との評価があり、正答率も低かった。要因としては、「外国人問題」全体になじみが薄かったこと、選択肢が複数の領域にまたがる知識を問う構成になっていたことにあると思われる。しかし、「生活意識にはある」「在日の人を見ているはずである」といった意見が示すように、外国人問題については受験者も知覚はしていると思われ、それを種々の法的知識とつなげて正確な理解に高めていくことがまさに「現代社会」の課題であると考えられる。難易度への配慮が不足した点は真摯に受け止めるところではあるが、こうしたメッセージを込めた出題を模索することも重要であろう。問8は、「人間の安全保障」が制度的に定着しておらず、教科書の採択も6社で難しいとの指摘をいただいた。実際に正答率も低かった。「教科書の水準を超えた難問である」との指摘は真摯に受け止めたい。

第6問 「生涯における青年期の意義と自己形成の課題」及び「現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる」という領域を中心に問題を作成したことが、「極めてオーソドックスな」と評される出題となった。心理学の用語は、日常用語と重複するものが多く、特に青年心理学の領域はその傾向が多々見られる。人々の話に度々登場する青年期と関連する用語、例えばアイデンティティ等について、正確に把握しておくことが大切であり、そのことが青年自身にとっても自己理解を深める助けとなることを期待し作題した。なお、この領域に関する多くの制限と基礎・基本を遵守した作題の結果として「いささか物足りない」との意見があっ



たのも事実である。問1は基本事項についての出題である。選択肢で使用した用語すなわち「境界人や周辺人であったのか、マージナルマンの方がよかったのか。」という評価をいただいたが、教科書では、マージナルマン・境界人・周辺人と用語を三つ併記しているものがおよそ8割である。青年期に関する基本的な事柄の理解を深めていけば、解答は容易と思われたが、結果としては低い正答率であった。問2については「グラフの読み取りはよいが、少し難しく」と指摘されたが、結果は高い正答率となった。21世紀最重要課題である「男女共同参画社会の実現」に関して、受験者には知っておいてほしい日本と世界の状況についてのメッセージを込めたつもりである。問3は自我防衛機制（反応）についての基本的な用語の説明であるが、取り上げた用語は「分かりやすい」との評価どおり正答率も高く、識別力の観点より、今後の問題作成を検討しなければならない。問4は「問題なし」との評価であるが、疑念のない正答肢を追求した結果が難易度に影響し、比較的易しい問題となった。問5は「コンフリクトやアパシーが言葉として難しい」という評価がある一方で、「勉強させるために（このような）問題はあってもよい」という評価もある。青年期＝アイデンティティの確立という言葉が示す意味をよく習得し理解してもらいたい意図で作成したが、正答率は低いものとなった。